



農大だより

URL <http://www.pref.kagawa.jp/nodai/>

第 2 号 平成20年6月1日

香川県立農業大学校
〒 766-0004
仲多度郡琴平町榎井34-3
TEL 0877-75-1141
FAX 0877-75-3989
E-mail:nodai@mx8.tiki.ne.jp



デンドロビウムを管理する森さん

高校の実習先農家で洋ランに魅了された森さんの夢は、洋ランに関係した仕事に就くことでした。農大では洋ラ

森のぞみさん（綾川町）
花き園芸コース 平成一八年度卒業

活躍する 卒業・修了生



有機農業に取り組む吉村さん

会社員だった吉村さんは、自然を相

吉村一成さん（丸亀市飯山町）
技術研修科平成一五年度修了

一日も早く「人から言われる前に気づいて動く」ようになりたいと頑張っています。

のメリクロン苗を生産販売する(有)バイオUで専攻実習し、その縁で同社に法人就農しました。
夢にまで見た法人就農先でしたが、特に炎天下での作業や山上げ・山下げは、これまで経験したことのない辛い作業でした。それでも、生長過程を日々見る楽しみや花が咲いた時の喜びは格別なもので、疲れなど忘れてしまうそうです。法人就農して一年になり、かなり慣れてきましたが、まだまだ一人前にはなれていないと感じています。

手に有機農業をしたいと考えていました。その目標を実現させるため、脱サラ後、農大での研修を経

て、平成一六年一月に「よしむら農園」を開園しました。現在では、一ニ〇アールの農地で六〇種類の有機栽培野菜を吉村さん夫妻と若いスタッフ六名で生産・販売をしています。販売先は地元スーパーやホテル、レストラン、自然食品の店です。また、直売やネット販売もしています。今年七月には宇多津町に直営のカフェをオープンする予定です。

吉村さんは農園のキーワードとして「有機農業」「コミュニケーション」「広がり」「健康」「環境」「楽しい農業」「身土不二」「多様性」の八つを掲げその実践をされています。農大の視察でも大変お世話になっている吉村さんのますますの御活躍を御祈念いたします。



吉村農園視察の様子

平成 19 年度先進地研修報告

(平成 20 年 3 月 12 日～14 日)



造園緑化コースは詩仙堂入り口で記念撮影



大田市場で熱心にメモをとる果樹園芸コースの学生たち



花き園芸コース視察先の福岡市動植物園



市場担当者からの市場情勢報告に聞き入る野菜園芸コース学生

野菜園芸コース

野菜園芸コースは四班編成で、東京都中央卸売市場大田市場と首都圏の百貨店、量販店で、野菜の流通販売状況を調査しましたが、事前に班ごとのテーマを調べて臨みましたが、実際の商品の陳列方法や香川との単価の違い等、驚きの連続でした。

「フルーツトマト」の調査では、各店舗の商品の糖度を比較した結果、価格と品質（糖度）は必ずしも正比例していませんでした。また市場担当者から、「品質」+「安定したロット」+「ネームバリュー」が大切であると説明を受けました。今回の研修を通じて、生産から販売までの総合的な対策が重要であることを実感することができました。

花き園芸コース

一日目は福岡市動植物園を見学しました。いたるところに花壇があり、パンジー、ビオラを中心にアリッサム、キンセンカ等が飾花されていました。温室には熱帯、亜熱帯他の植物が所狭しと展示されていました。

二日目は博多駅周辺の花屋を調査しました。花屋の花の値段はなぜ高いのかと熱心に尋ねる学生の姿が印象的でした。

三日目は、福岡花市場で流通について学びました。予想以上に外国産の品が入ってきていることに驚き、昔ながらの手ゼリの熱気あふれるやり取りには終始圧倒されていきました。今回の研修で花について多くを学んだことはもちろんですが、主体的に行動することで、社会勉強もできたと研修の成果に手ごたえを感じています。

果樹園芸コース

果樹園芸コース七名は、東京都中央卸売市場大田市場と都内の百貨店や高級果実専門店で、果実の流通販売状況を調査しました。

大田市場では各産地から出荷された品物やせりの状況を見学しました。学生は規模の大きさや輸出品の多様さに感嘆の声を上げていました。また、小売店舗では、果物の

陳列や販売促進方法、品質管理の仕方などを学ぶことができました。

市場の関係者や販売店の係員から、香川県の果物の特徴やその流通上の問題点などを聴くことができ、東京から見た本県の評価の一端を感じることができました。研修での経験は、今後の専攻実習や卒業論文の中に生かされることと思います。

造園緑化コース

造園緑化コースでは、例年、京都の庭園を見学しています。古い歴史のある京都には、格式が高く、有名な庭園が集中しており、二泊三日の限られた時間でも効率よく調査・学習することができました。

本年も、一年生五名が、各庭園様式（廻遊式、枯山水など）の代表的な庭である桂離宮、修学院離宮、詩仙堂、曼朱院など十数箇所を選定し調査してきました。

今回、本物の庭を見学できたことで、庭園の景観や形式、また造営の

歴史や経緯などを直に学ぶことができました。また、祇園界隈の散策では、日本的な美意識を改めて確認でき、庭作りの感性や美的センスを磨くよい機会になりました。

魅力ある

農大の実現に向けて

農業・農村の実情や時代の要請に応じた農業大学校に変わっていくため、若者が学びたいと思えるような魅力ある農業大学校づくりについて検討を進めているところです。そのうち平成二〇年度から実施するものについて紹介します。

一 農業大学校の専修学校化

農業大学校は、これまでの農業改良助長法に基づく農業者研修教育施設としての教育方針を変えることなく、平成二〇年四月から学校教育法に基づく専修学校となりました。専修学校になると、①卒業生の希望者は、四年制大学三年次編入が

可能となる、②卒業生は、「専門士」の称号が得られる、③日本学生支援機構の奨学金を利用することができようになります。

二 日本農業技術検定の導入

日本農業技術検定は、農業の知識や技術水準を客観的に評価する全国的な試験で、二級（農作物の栽培管理等が可能な基本レベル）が本年度から実施されることに伴い、全学生が受験できるようにします。学生にとっては、学習の習得状況が把握でき、学習意欲の向上に繋がるとともに、法人就農の際の有利な資格の一つとなると考えられます。

三 研修の充実と有料化

就農を支援するための研修を充実するため、入門から実践までステップアップ可能な研修体系に再編するとともに、修了者等を対象とした新規就農者フォローアップ研修を新たに始めました。また、受益者負担の観点から、一部の研修について有料化しました。

卒業論文発表会

一月二五日、校内卒業論文発表会が行われました。

学生と職員の採点の結果、野菜園芸コースの前川直樹君と果樹園芸

コースの角岡仁君が最優秀賞、野菜園芸コースの池尻純一君、果樹園芸

コースの川内一賢君、横田尚弥君、造園緑化コースの小亀裕次郎君が

優秀賞となりました。

園芸コース角岡仁君が代表として参加しました。

中国四国ブロック

プロジェクト発表会

二月七日(木) 島根県出雲市「パルメイト出雲」において開催されました。本校からは野菜園芸コース前川直樹君、果樹園芸コース角岡仁君が代表として参加しました。

当日は、十八課題の発表がありました。どの課題も内容は十分推敲を重ねられており、発表もメリハリをつけた口調や工夫された資料作りがなされていきました。発表は、環境問題、総合防除等、農業情勢に即したテーマが多く見られました。

発表会後の交流会では発表会のピリピリムードとは一転して、夕食をとりながら親睦を図りました。各学校の紹介で、野菜園芸コース一学年の五嶋友紀さん、坂西健太君が農大の実習風景や、学校行事の紹介を行いました。なかで

氏名	発表テーマ
池内 和美	防虫ネット設置ハウスの高温対策
池尻 純一	半促成栽培におけるミニトマトの葉かび病耐性品種の生産性調査
大谷 和輝	レタス栽培における土壌の細粒化の有効性
亀山 浩司	キャベツ大規模農家経営概要調査及び年内取り作型有望品種の検討
高木 誠	大規模レタス農家経営概況調査及び省力化技術のポイント
瀧本 貴則	アスパラガス等から採集したネギアザミウマに対する薬剤の殺虫効果
中村 友洋	イチゴ「さぬき姫」の定植時期が開花や年内収量に及ぼす影響
前川 直樹	露地野菜での薬剤散布における農薬飛散防止対策の検討
丸山 靖弘	アスパラガスのホルヒチン処理による4倍体の効率的な作出
森 信大	トマト栽培におけるコナジラミ類に対する天敵防除技術の検討
横内 純平	イチゴ栽培における天敵を利用したハダニ類防除対策の検討
池田 智哉	ポットハボタンにおける矮化剤処理
稲毛 千恵	ポインセチア「フリーダムアーリーレッド」における矮化剤処理が生育に及ぼす影響
内海 健太	チェーンポット育苗がデルフィニウムの生育に及ぼす影響
小林 明代	秋出荷におけるパンジー、ビオラの播種時期の検討
北条 有樹	ラナンキュラスの催芽及び冷蔵温度と期間が開花に及ぼす影響
宮本 誠也	12月出しトルコギキョウにおける種子冷蔵の品種適応性
大西 翔	モモ「なつおとめ」における摘果程度の違いがみつ症発生ならびに果実品質に及ぼす影響
角岡 仁	カキ「太秋」における袋掛けが果実に及ぼす影響
川内 一賢	ウンシュウミカン「興津早生」における摘果方法の違いが果実品質と収量に及ぼす影響
宮武 祐希	ジベレリン処理がナシの品質に及ぼす影響
村井 詳	ブドウ「ビオーネ」におけるマルチ及び破袋処理が果実品質に及ぼす影響
室塚 友樹	キウイフルーツ「さぬきゴールド」「讃緑」における環状はく皮が果実品質に及ぼす影響
横田 尚弥	メチオニンを含む液肥複合肥料の葉面散布によるモモの糖度上昇効果
鎌田 直樹	CADを活用した花壇デザインの作成
小亀 裕次郎	松盆栽見本園の施工
天雲 政夫	オリーブ緑枝挿し及びポット育苗法の改善方法について
西岡 和晃	松盆栽見本園の計画・設計及び盆栽松の樹形別植栽
山口 光太郎	2号見本庭園テラスの設計と施工について
泉谷 浩之	夏場における養豚の種つけ適期
中西 輝人	緑餌給与が産卵鶏の飼料要求率及び卵質に及ぼす影響調査



角岡 仁君 発表の様子



前川 直樹君 発表の様子

も、農産物直売所の取り組みは、関心が高く、運営方法、販売実績等について質問が相次ぎました。一同は、来年度開催地である徳島県での再会を誓い、本大会を締めくくりました。

平成一九年度卒業式

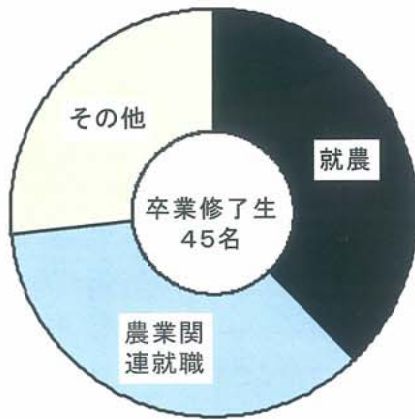
三月六日、第三一回卒業式が、真鍋県知事も出席され、盛大に行われました。

西谷校長から「本校で学んだ知識や技術、体験を活かし自らの力で未来を切り開いてもらいたい」と式辞があり、野菜園芸コースの池内和美さんが「自分たちのこの手を信じて人生を育んでいきたい」と力強く答辞をしました。

一九年度担い手養成科の卒業生三十一名のうち就農者は三名、農業関



答辞をする卒業生代表



平成一九年度卒業生、修了生の進路

係への就職者は、JA香川県一名、市場や農業機械会社等九名、食品関連企業六名でした。その他の進路のうち一名は今年リニューアルした農業者大学校（茨城県）へ進学しました。また、技術研修科の一四名の修了者は、全員就農しました。就農、就職と希望を胸にそれぞれの道を歩み始めた皆さんの御活躍をお祈りします。

平成二〇年度入学式

去る四月十一日（金）に本校体育館にて、平成二十年度入学式が挙行され、担い手養成科二十八名、技術研修科一六名が入学しました。

式典では西谷校長より、香川県農業・農村の担い手となるよう努力して欲しいとの激励があり、新入生を代表して、担い手養成科造園緑化コースの三谷勇二君が誓いの言葉を述べました。



宣誓する新入生代表

同窓会の行事

在校生との交流会

農大同窓会役員会は、卒業式の前日の三月五日に、在校生との交流会を開催しました。

交流会は、まず、同窓会役員と担い手養成科二年生、技術研修科研修生との対面から始まりました。二年生・研修生が自己紹介とともに将来の抱負を述べましたが、全員の紹介が終わるころには場がずいぶん和みました。引き続き一年生も加わり、居住地別交流会を行いました。昼食を食べながら、さらに卒業後の進路や地区の話題などについて話を深めました。一年生は、同じ地区の大先輩と二年生の前で少し緊張していたようですが、同窓会を少し身近に感じられるようになったようです。

コース、研修科の今

果樹園芸コース



専攻実習の状況(ナシの摘果作業)

果樹園芸コースは、一年生三名、二年生七名の計一〇名が在籍しています。みんな元気で毎日講義に、実習に取り組んでいます。

一年生は、入学してまだ僅かしか経っていないので、実習作業がごこない学生もいます。しかし、直ぐに慣れてくるものと思います。

二年生は、二名が農業試験場府中分場で専攻実習を行うため、本校に

は五名が残り、各自のプロジェクト課題に取り組んでいます。

専攻実習は、本校から約二キロメートル離れた果樹園で行っています。果樹園で栽培している各樹種の植栽品種は左表の通りです。香川県産の主要果樹をほぼ揃えており、最近、人気の高いブドウの「瀬戸ジャイアント」やカンキツの「せとか」、カキ

表 果樹園芸コース(買田圃場)における植栽状況

樹種	面積(a)	品 種
モモ	20.9	紅清水、加納岩白桃、よしひめ、なつおとめ等
ナシ	9.1	幸水、豊水、筑水、新高等
ブドウ	16.6	ピオーネ、藤稔、安芸クイーン、瀬戸ジャイアント等
キウイ	14.6	香緑*、讃緑*、さぬきゴールド*
サルナシ	0.2	香料*
カキ	11.8	富有、太秋、平核無等
カンキツ	17.5	日南1号、宮川早生、いしじ、不知火、せとか等
スモモ	1.9	メスレー
その他	4.7	蓬莱柿、長崎早生、茂木、田中、ゴールドコット等

*: 香川農試育成品種

の「早秋」等の新品種もいち早く導入しています。また、各樹種の栽培管理は二年生がそれぞれ責任者を決め、計画的に行っています。実習で収穫された果実は校内の直売所でも販売していますが、いずれも好評を頂いており、特に県オリジナル品種のキウイフルーツ「香緑」「讃緑」「さぬきゴールド」、サルナシ

「香料」は毎回売り切れるほどの人気商品となっています。

これからは、モモ、ナシの摘果、ブドウのGA処理、キウイフルーツ、サルナシの人工授粉等、今年の作柄を左右する重要な作業が目白押しです。

今後の行事計画

七月一五日～一七日

全国農大交換大会

(宮城県)

八月中旬

後援会情報交換会

十月八日

四国農学連スポーツ大会(愛媛県)

十一月八日

ふれあい市

来たれ!

オープンキャンパス

六月二三日(日)午後

八月四日(月)、五日(火)午後

八月二七日(水)午後

内容

大学の概要説明

入試の概要

施設見学

個別相談 など

事前に電話でお申込みください

0877(75)1141

教務課・吉田、清水

編集後記

「農大だより」第2号がやっとでき上がりました。今後も農大のタイムリーな情報をどんどんご紹介したいと思いますのでご期待ください。